

八月十九日

朝五時起床。まだ荷作りしていなかったのので用意する。旅をするたびに段々荷物は小さくなってきた。ハードなスケジュールだからとても読む時間はあるまいと考えたが、習慣で本を一冊つめ込む。ドシャ降りの雨で烏山駅まで歩くのにビシヨぬれになる。

新宿発の七時過のナリタエクスプレスでナリタへ。飛行機はどの方向に台風を回避するのかな。日本アジア航空カウンターで鈴木さんと会う。十時発。台風をすり抜けてゆくらしい。名古屋上空でようやく台風の雲から解放される。台北十二時到着。李祖原迎えてくれる。昼食後フェルモ・サ・リージェント、チエツクイン。広くて良い部屋で、熊谷組から部屋に花が届けられた。施工中の台北ファイナンシャル・ハイライズ百一階建の工事現場見学。これまでのオフィスビルの超高層とは大きさが違う世界に突入している気がする。

夕食は近くのホテルで。フカヒレ、アワビ等上等なモノを食したが、夜の鈴木さんのレクチャー準備、私も挨拶の原稿作りで食事に身が入らなかつた。惜しい事をした。七時より近くのビルのホールで講演会。私がCYLEEと鈴木博之について話した後、鈴木博之レクチャー。「チャイニーズ・センス・オブ・アーキテクチャー」情報化時代の情報というのは形が無い。意味だけがある。その意味を表現しようとするのが現代建築の課題である。又、世界はユニヴァーサルスペースと呼ばれるには余りにも同じでは

ない。場所の固有性に満ちている。その固有性を手掛かりにして新たな場所の意味を表現することも課題である。インターナショナル、ユニヴァーサルスペースといったモダニズされたフィーリングを知りながら、むしろそれぞれの個別生に戻ってくる時代なのだ。というのがレクチャーの骨子。日本に居る時よりもむしろ明快に話の筋が浮かんできた。通訳が間に入っているのも、むしろ表現の仕方を自由にさせていた。李祖原も隣でメモを取りながら聞いていた。六十五才でこの姿勢だ。大きくなる筈だな人間が。鈴木さんの場所論の中心を聞いたようだ。面白かった。ホテルに戻り、ビールを飲んで部屋へ。早稲田の嘉納先生からFAXが入っていて電話する。稲門建築会の件。このメモをつけて十二時過休む。明日はハードな一日になりそうだが、頭は働いてきた。やはり旅の効能はあるのかも知れない。

スーパーメガ建築の可能性について考えてみようかと思うが、建築の主題はそうではないだろう。台北時間〇時三〇分寝る。

八月二〇日

五時半起床。部屋の窓から台北市が見渡せる。下のモダンな公園はどうやら昔気に入っていた林森北路の焼場の跡の大バラック村をクリアランスして作ったものらしい。この周辺は確かに色々なゴールドを販売する店が行列してあつたところだ。台北の人々の記憶にあの焼場はまだ残っているのだろうか。開発されつつある場所の中心にほんの少し昔の面影を残した森が見降ろせたので一気に記憶がよみ返った。昨夜の鈴木博之のレクチャーを思い起こすに場所の意味とは突きつめるところ場所の歴史という事である。人間の営みの記憶が歴史を形づくるものだと思えば、全ての意味の源は歴史でしかあり得ない。その歴史に対する解釈の相違

が個別生を又、産み出すのである。モダニズムは歴史からの離脱をその出発時にエネルギーとしていた。その欠陥が今日明からさまになってきているのである。六時三〇分前朝食。CYと秘書の陳小姐が下で待っていてくれた。鈴木さんも六時半ジャストにレストランに現われた。昨夜の鈴木さんのレクチャーの骨子をシングルポールで出版される李租原作品集に採録させてもらう事にした。鈴木さんも了解。私も少し気合いを入れて李租原論を書かなくてはならない。相変わらず他人の事ばかり余計なお世話を焼いているのは重々承知のだが、CYは気に入った男なので仕方ないのである。七時前ホテル発。台北松山飛行場へ。九時の飛行機で高雄へ。アツという間のフライトである。高雄港へ向う。大きなポートが待っていて港内よりCYのハイライズを見る。以前ポートからは二川幸夫と一緒に眺めた体験があつて、再びそれをなぞつた感じ。一〇一階建のCYのハイライズは独特なシルエツトを持っているが、今日は層気楼の如くに見えた。真夏の暑さがそう眺めさせたのかな。内外に巨大なボイドスペースを持つのがこのハイライズの特徴だが、少し強引に過ぎるような気もする。無理して作った巨大なボイドがそれ程に生きていない。吹抜けの域を越えていない。しかしながら原広司の大阪の超高層よりは随分まじなハイライズなのは確かだろう。高雄港内を巡っていて巨大なコンテナ船や造船所、自走クレーンなどの風景を見ると、今が本場に情報の時代なのかなといぶかしむ。鈴木さんもこの風景の中にいて「重厚長大もいいよな」とつぶやいていた。同感である。私達の観念は先走りし過ぎて空転しているのかも知れない。高雄港の港湾局長にお茶をいただき、ハイライズ八十五の内部見学。最上階のレストランでお茶を飲んでいる時に、はるか地上を眺め下ろしていた鈴木博之が、豆粒のような古い洋館を見つけ、アレ

は何かとCYの秘書・陳小姐に尋ねたら、私のおじいさんの家ですという返事。冗談だろうと聞き流して、ハイライズの見学後念の為に試してみたら、それは本場の事であつた。その洋館は今、博物館状になっていて、一階入口ホールには大きな銅像が置かれていた。マサカと思って誰なのと聞けば、陳さんは事もなげに私の祖父ですという。なんとCYLEEの秘書の陳さんは台湾に十一年あつたという財閥陳一家の子孫だつた。驚いた。そんな理由で博物館でどつさり資料を持たされてしまった。この建築に関しては国際シンポジウムも開催されていて、藤森照信も来ていた。しかし、こういう事があるから旅は面白いのだ。昼食は魚料理。スーとカニがうまかつた。食後、CYのもう一本のハイライズを見て台中へ向う。五十階建ての方のハイライズは一本の巨大な柱状の建築でシンボリックではあるが、今のCYのハイライズのスケールと比較すれば小さいような気がしてしまう。今のCYのハイライズはただの超高層を超えてしまう何かを持っている感じがしている。台中埔里まで高速道路を走り続ける。十八時三〇分頃埔里の中台禅寺に到着。このCY設計の巨大寺院も二度目の訪問だが、前回の印象とは大分ちがっていた。この巨大な禅寺に関しては今月のクリティークとして特に別記する。前回にも会つた僧侶と食事をして、(すごい速力で喰べるのだ)寺院内を見学。夜特別に光のスペクタクルショーまでやってくれて、正面玄関の巨大スクリーンに歓迎鈴木博之教授石山修武教授なんてプロジェクションされたりして、マア良くやるなーと思わされた。CYLは何事も徹底してやる男なのだよ全く。夜景を是非見てくれと埔里まで夜行つて、その寺院(これもCYL設計)の二階から遠く眺めたりした。何しろ幅二百三〇M、高さ百三〇Mの代物である。クタクタになって寺に帰り十二時倒れるように寝た。木の

固いベッドで背中腰がゴリゴリ音を立てるのだが、禅寺だから仕方ない。しかし日本における禅解釈と台湾、ひいては中国における禅は随分ちがう世界であるような気がする。時代に於ける宗教と建築の関係をこれ程明からさまに見せてくれる事例は少ない。キリスト教とモダニズム、あるいはインターナショナルスタイルの関係はあるのか、無いのか知りたい。

八月二一日

朝六時過起床。目覚めれば巨大な寺院の一室で、何処にいるのか気付くのにしばらく時間がかかる。東の空が明るく、埔里の盆地の風景が黒白ににじむようで美しい。シャワーを浴びて荷作りをして七時前に下に降りる。エントランス前広場でスケッチ。七時朝食。今日も禅式の食事である。食事後上のテラスに上りもう一つスケッチ。台中空港へ向けて車で走る。プロペラ機で台北へ。CYLEEの作品を再び見て廻り、広東料理の昼食。食後再びいくつも建築を見て廻り五時過CYLEEのオフィスへ。最近のプロジェクトを見る。上海のプロジェクトに新しい傾向が見てとれる。相変わらず凄まじい仕事量である。ホテルにチェックイン。少し休んで十九時よりホテルの三Fで台北の先生建築家達とパーティ。李租原の孤立振りが良く解るパーティであった。台湾の建築界は勉強留学に於ける外国、世界はあっても、まだ仕事上の「世界」は現れていないのかも知れぬ。中原大学の先生が二人出席してくれていて旧交を暖めた。私はどうやら何処の国へ行っても建築界との附合いは上手くない性質のようだ。パーティは苦手である。明日は東京へ戻る。短い旅であったが色々考える事が出来て良かった。明朝は少しゆっくりできるので楽だ。